

会 議 名	第5回港区まちづくりマスタープラン検討委員会
開 催 日 時	平成28年5月19日（木曜日）午後7時から9時まで
開 催 場 所	区役所9階 研修室
委 員	<p>(出席者)</p> <p>学識経験者委員：中井委員、服部委員、桑田委員、市古委員、森本委員、杉浦委員、羽生委員</p> <p>区民委員：今村委員、保坂委員、中島委員、堀場委員、大本委員、堀江委員</p> <p>行政委員：小柳津副区長</p> <p>(欠席者) SUH 委員</p>
事 務 局	波多野街づくり支援部長・芝地区総合支所長（兼務）、野澤都市計画課長、杉谷土木課長、小谷土木計画担当課長、西川交通対策担当課長、齊藤街づくり計画担当係長
傍 聴 者	2人
会 議 次 第	<p>1 開 会</p> <p>2 報 告</p> <p>(1) 今年度の検討スケジュールについて</p> <p>(2) 改定骨子についていただいたご意見について</p> <p>3 議 題</p> <p>港区まちづくりマスタープラン 改定素案（草案）について</p> <p>4 閉 会</p>
配 付 資 料	<p>【配付資料】</p> <p>資料1 改定の検討スケジュール</p> <p>資料2 今年度の検討委員会の予定</p> <p>資料3 グループヒアリングについて</p> <p>資料4 改定骨子についていただいたご意見について</p> <p>資料5 港区まちづくりマスタープラン 改定素案 草案 第1章～第4章</p> <p>資料6 港区まちづくりマスタープラン 改定素案 草案 地域別構想（素案イメージ）</p> <p>参考資料1 第4回検討委員会 議事要旨</p> <p>参考資料2 検討委員会 委員名簿</p>
会議の結果及び主要な発言	
委員	<p>1. 開会</p> <p>2. 報告</p> <p>(1) 今年度の検討スケジュールについて</p> <p>(2) 改定骨子についていただいたご意見について</p> <p>3. 議題</p> <p>港区まちづくりマスタープラン 改定素案（草案）について</p> <p>●第1章～第3章について</p> <p>24 ページの「住みつづけられるまち」に関する文章について、港区は職住近接であることから、高齢者、障害者の「自立」を促すような都市であってほしい。</p>
委員	23 ページの下の図の矢印の意味がわかりづらい。両方向に向かっているの

委員	はということか。
事務局	15 ページでは、人口が将来的に 30 万人まで増加しそれが維持されるとなっているが、統計的にそのようになっているのか。それとも目標なのか。
委員長	昨年度策定した港区の人口ビジョンにおける推計結果がこのようになっている。今より 5 万人程度増えたところで安定する推計である。
事務局	推計はどういった方法で行っているのか。
委員長	コーホート要因法を用い、10 年ごとに、開発が進むスピードの前提条件を変えていると聞いているが、詳細は確認する。
委員長	今後これだけ順調に人口は増えるものなのか。また、平成 38 年で増加は止まるものなのか。その二点が気になる。
副区長	今は毎年推計を見直している。単純なコーホートではさらに増加が進む結果となるため、10 年後を境に前提条件を変えている。人口問題研究所（社人研）の推計よりは高い（多い）値となっている。
委員長	このマスタープランをどのようにモニタリングしていくかということと関係する話である。PDCAを含め、6 章で書いていただけるとよい。
委員	16 ページの東日本大震災の教訓では、「明らかになった」より一歩踏み込んで「体験したこと」という表現に修正いただきたい。災害に強いことに加え、「回復力のある」という表現も加えられるとよい。
委員	26 ページの拠点の形成は重要な視点である。ここを受けて、28 ページがある。30 ページでは拠点の数が 8 つとなっているが、新橋と汐留とは別々なのか、それとも一体なのか。統一できるとよい。
事務局	28 ページの図のように、新橋と汐留とは一体とするのがよいと考えている。30 ページを修正する。
委員	9 ページに建ぺい率・容積率のグラフが示されているが、これを掲載する意味はあるのか。
委員	23 ページの将来都市像の文言について、個人的な感想としてはサブタイトルの「深呼吸したくなるまち」が港区の現状からはイメージしづらい。キャッチフレーズの「国際生活都市」という文言を受けて、サブタイトルでは「歴史と未来が融合する都市」と書かれていることに内容の整合性がみられず違和感がある。今後多様な媒体に掲載することも考えると、もう少し慎重に検討いただけるとよいのではないか。
委員	16 ページの東京圏からみたポジショニングは、これだけではないはずである。昨年度整理した内容を反映させていただけるとよいのではないか。
委員	第 2 章では、第 4 章に反映させるポイントのみをうまく示せるとよい。第 2 章を設けたことはよいが、ポイントを絞った形で記載するなど工夫が必要である。
委員	23 ページの「住みつづけられるまち」からは、うまくニュアンスが伝わってこない。「頑張ってここに住み続けている」といった印象を受けてしまう。「住みつづけたいと思うまち」などの表現がよいのではないか。
委員長	「住みつづけられるまち」は、人口が減っていた時代のテーマである。現在は状況が変わっており、時代とずれている感もある。杉浦委員の指摘も踏まえ、表現は再度検討いただきたい。
委員	大テーマに掲げる「うるおい」の内容が、「目指すまちの姿」の表現に盛り込まれておらず、読み取りにくい点も気になる。
委員	将来都市像のキャッチフレーズに関する杉浦委員のコメントは、これで 2 回目である。区として強いこだわりがあるのか。表現はきれいだが、これからの港区にふさわしいか、さらに検討してほしい。
事務局	ご意見を受けて検討しているが、案が浮かんでいない。よい言葉があれば是非ご提案いただきたい。

委員	23 ページの図は、文言と視覚的な表現とが一致していない印象がある。見たときに内容の印象が伝わるような、読みたくなるようなものにできないか。また、基本理念の「皆」という部分があまりにも漠然としている。もう少し具体的な表現の方がわかりやすいのではないか。
事務局	港区の歴史でいうと事業者もまちづくりに参加していることから、「皆」という表現を用いている。
委員	●第1章～第4章について 第2章～第4章の内容に温度差がある点が気になっている。例えば53ページの図は、第2章で現況として説明した方が適切ではないか。また、28、59、83 ページの各方針で示す内容にずれがある点も気になる。筋を通していただきたい。
委員	36 ページの取組の方向性の「類型化し、類型ごとに…」という方法は王道かもしれないが、若干古く感じられる。港区のダイナミックな動きの中では固定的な印象を受けてしまう。ベースは類型化だが、それを踏まえながらもダイナミックに対応できる書き方ができるとよい。また、パブコメでも指摘があったようだが、「倉庫・流通施設等を中心とした市街地」については表現を検討いただきたい。
委員長	「まとまった良好な市街地」以外はダイナミックな市街地である。類型によってはもう少しダイナミックなことを想定しないと、現実的な対応も難しいのではないか。
委員	「倉庫・流通施設等を中心とした市街地」については、リノベーションだけでなくコンバージョンを取り入れることも、このエリアのまちづくりとしては考えられるのではないか。また、リノベーション・コンバージョンについては、このエリアだけに特化することでもないのではと感じている。
委員	「水辺の活用」「運河の活性化」といった文言がこの章のいたるところに出てくるが、運河の活用という点では10年前からほとんど変わっていない。護岸工事が少し増えた程度である。「にぎわい創出、舟運…」などが書かれているが、なぜ実現できないかという理由はある。一つは護岸が区のものではないということ。上部の組織（都や国）との連携についてこの中でもう少し示しておかないことには、これ以上なかなか進まないのではないか。また、にぎわいといっても、人が歩いているだけでなく、何かがないことにはにぎわいは生まれにくい。そこをもう一つ破れるような文言・方針を、どこかに示していただきたい。
委員	例えば54 ページなど、「古川や臨海部の…」といった文章に「公的管理主体との連携を強め」などの文言をうたっておいていただけるとよいのではないか。
副区長	都も舟運、水辺の活用といったことは言い始めている。今後の10年で連携は進むと考えられることから、表現は考えさせていただきたい。
委員長	個別の内容についてだけでなく、今後のまちづくりの進め方（第6章）に一つ項目を立てて「行政機関どうしの連携」をぜひ入れていただきたい。
事務局	検討させていただく。
委員	今年の第1回定例議会では、湾岸地域のまちづくりについて、まちマスの中で「水辺に開かれた魅力あるまちづくり」について、具体的な方針を示すと答弁されている。そういった内容はどの段階で落とし込まれるのか。地区別で示されるものなのか。
事務局	地区別の芝浦港南地区（一部は芝地区）での記載になるかと考えている。次回お示しする地区別の方針をお待ちいただきたい。
委員	37 ページ「開発事業の計画的な誘導」とあるが、周辺からの景観について

	<p>も書き加えていただきたい。ビル風だけでなく風の道についての記載も必要ではないか。</p> <p>42 ページ「ゆとりやうるおいのある居住空間の整備・誘導」について、港区では大規模開発により良質な住宅は自ずと入ってくるのではないか。必要なのは多様な世帯が入れることや、区民向けの住宅のことである。住宅に関してはもう少し広がりのある視点をもっていただきたい。</p> <p>54 ページ、民有地内の既存の緑の保全は、現実的には困難なことである。緑をどう保全するかが最も大事であり、まちマスにおいて意思を伝えるだけでなく、どうやって進めていくのか担保できるような内容を述べていただきたい。</p> <p>63 ページ「マンションにおける共助体制づくり」とあるが、新築のときからコミュニティの形成を図っていくことが大事である。今の文章では、老朽化マンションのみでコミュニティ形成が必要だとも読めてしまう。広がりをもった書き方を検討いただきたい。</p> <p>69 ページ、景観の保全という話では、保全すべき景観が具体的に示されていない。現在開発が起こっているということは、保全すべきものが壊される危機もある。どこを保全すべきなのかをきちんと位置づけてもよいのではないか。また、重点的に景観形成を図る地域は本当にここに示したところだけなのか、湾岸沿いについてはこれだけ必要なのか、といった点も疑問である。</p>
委員	<p>景観の保全に関連して、71 ページに文化財庭園等の周辺における景観の保全が書かれているが、区民から要望を出したとしても、法律的には問題がないことから何もできないという答えが返ってくる。区民からすると、マスタープランでは景観は保全されると読めるが、現実的に保全はできない。保全できる仕組みを整えることをきちんと行っていただきたい。</p>
事務局	<p>景観計画では保全について細かく記載している。景観計画の内容との整合は図っていく。また、同様に方針2についても、住宅関係の分野別計画とで書く内容を整理する。</p>
委員長	<p>あまりにも一般的な表現を用いると、どこでも保全に取り組んでいるという誤解を招くこともある。</p>
委員	<p>44 ページのタバコルールの書き方などは、参照先がわかり非常にわかりやすい。景観等についても、このような書き方ができるとよいのではないか。</p>
委員	<p>43 ページの(3)については内容がありふれている。当たり前の内容しか書かれていない。子育てというとまず乳幼児支援が想像されるが、それだけでなく、障害者の対策、就労支援ふまえた対策が必要である。また、マスタープラン自体が障害者に読めない、理解できない、といった点も問題である。ビジュアル的にも内容が理解できるようなものとしていただきたい。</p>
事務局 委員	<p>担当課と連携をとっていく。</p> <p>46 ページ「基本的な考え方」について。2番目に交通結節点の話が必要であり、これは大きなキーワードとなる。(2)に関する内容として、道路の階層性についての話を追記いただきたい。(3)に関する内容は3つ示されているので、ここは2つ程度にまとめられるとよい。</p> <p>47 ページ「交通結節点の整備」の駅前広場とは、おそらくJRのことである。7つの拠点のうち、半分は地下鉄駅であることから、地下鉄の駅に関する空間の整備についても是非記載いただきたい。</p> <p>48 ページ「取組の方向性」の文章について、「適正な道路ネットワーク」は「階層性のある道路空間」に変更していただきたい。種別によって使い方が異なるということを書いていただけるとよい。</p>

委員	<p>方針4（緑・水）の「基本的な考え方」について。「基本的な考え方」と（1）～（5）の各項目との対応が見えない。例えば、「基本的な考え方」の記載に（1）と（3）にあたる内容はみられるが、（2）（4）（5）についての記載はみられない。多少の過不足はあってもよいが、対応関係をもう少しはっきりさせることで、読み手にも伝わる内容となるのではないか。また、「泳げる海」という記載があるが、港区における全ての海水面を泳げるようにするのではないはずである。「基本的な考え方」に部分的な話は盛り込まない方がよいのではないか。</p>
事務局	<p>方針6（景観）も同様に、「基本的な考え方」と各項目（1）～（4）との対応が見えない。例えば、（3）の話はどこに対応するのか。</p>
委員長	<p>文章を書き込んでいく段階で整合をとりたい。</p>
事務局	<p>泳げる海は、泳げるような水質の海にすることか。</p>
副区長	<p>水質改善を狙っている。また、オリンピックへの対応も含まれる。全域を泳げるようにということではない。</p>
委員	<p>区では、水質をよくするためのキャッチフレーズとして使用している。</p>
委員	<p>一般区民には、普通に「水質を改善する」と言った方がわかりやすいのではないか。</p>
事務局	<p>60 ページの老朽化した建築物の適切な更新とは、具体的にどういったことを行うのか。</p>
委員	<p>この10年の間にマンション建て替えの法整備が進んでいることから、今後20年を見据え重要なテーマであると考え、フラグを立てるという意味もあり記載している。</p>
事務局	<p>34 ページ。色使いに意味はあるのか。色を使うのであれば意味を持たせることを意識していただきたい。</p>
委員	<p>検討する。</p>
事務局	<p>方針8について。方針としては、他の部分に分散されて記載されているものも、できれば再掲していただきたい。</p>
委員	<p>（2）のボリュームが大きくバランスが悪い。観光に関しては、点（資源）としての文言がどうしても多くなってしまうが、港区で重要なのは、エリアとしての魅力をどう高め、それをどう連帯化して地域のキャラクターをつくりあげるかということ、あるいは、モザイク状態で多様なものが折り合っている魅力をつくっていくことである。ピンポイントの資源に関する文言に加え、エリアのイメージを（2）の中で書き込んでいただけるとよい。ピンポイントな資源については、まちづくりという観点からブラッシュアップし、エリア、資源の連携を、周遊性を高めるだけでなく、どのようにその中の資源を使って誘客につなげていくかという視点が重要である。エリアの魅力づくりに加え、エリアとエリア、資源と資源とをつなぎ合わせることで、ブランドにしていく、イメージを強力にしていく、という形で記載いただけるとよいのではないか。</p>
委員	<p>（1）の「環境整備」については、観光分野では「受け入れ体制づくり」があり、様々な資源だけでなく、それを使いやすくしていくためのものが環境整備である。国際都市というのは観光とは別の視点であり、多文化共生についての話がここに書かれるだろうと考えていたが、その中身が書かれていない。ここでは何を書くのか。外国からの来街者を受け入れるための体制づくりにしぼるのであれば、「国際都市にふさわしい」ではなく、観光の1カテゴリーとして、「多様な人が訪れやすいような仕組みづくり」に考えを変えてもよいのではないか。一度整理していただきたい。</p>
委員	<p>（3）は、それぞれのエリアに特性のあるような文化を、まちづくりの中で継承して発信していくということが、おそらく文化芸術振興プランに書</p>

委員	<p>かかれていたと思うが、それがなくなってしまう。今まで維持してきた無形の文化を、まちづくり活動の中でどう維持していくかについて書き込んでもよいのではないか。エリアを限るのであれば、例えば麻布の下町的な風情といった記載もあるように、文化の継承をまちの更新の中で維持していくことを方針として書いていただけるとよい。</p> <p>83 ページについて。27 ページ（広域の図）、28 ページ（拠点整備の図）、59 ページ（緑の図）、景観の図等との重ね合わせを意識された方がわかりやすいのではないか。</p> <p>防災については、港区らしい方法論を打ち出すことが大事である。</p> <p>60 ページの「基本的な考え方」は、具体的な文章との整合を図ることが必要である。また、下の図には、揺れのイメージ（被害想定）のようなものを入れていただきたい。</p> <p>61 ページの「取組の方向性」の文章は、「都市基幹施設」よりも「市街地の」と文言を変えた方が馴染むのではないか。また、「主な取組」については書き分けが必要である。一つは再開発型（街区再編）、もう一つはまちづくりと一体となって更新を図るということである。</p> <p>62 ページ（2）のタイトルは「都市機能の早期回復マネジメント」とするのがよいのではないか。</p> <p>64 ページは今回新しく追加していただいた部分である。この内容は是非入れていただきたい。</p> <p>4. 閉会</p>
----	---